

JCNE助成金活用セミナー

「申請前のまとめ編」

- ① 助成金もマッチングの時代！？
- ② 助成財団が求める事業とは？
- ③ 申請書に必要なのは、共感？それとも理論？

(一財) 非営利組織評価センター 山田泰久

Twitter : @canpan2009

<http://www.facebook.com/yamadamay>

2022年10月Ver.01

プロフィール：山田泰久（やまだやすひさ）

一般財団法人非営利組織評価センター 業務執行理事

寄付月間 推進委員会委員／共同事務局事務局長

一般社団法人全国コミュニティ財団協会 監事

イシス編集学校（松岡正剛氏主宰） 師範代

群馬県高崎市出身、慶應義塾大学文学部卒（フランス文学専攻）。

1996年日本財団に入会。2009年から公益コミュニティサイト「CANPAN」の担当になり、NPO×情報発信、助成金、IT活用、寄付をテーマに様々なNPO支援の活動に取り組む。

2016年4月、（一財）非営利組織評価センター（JCNE）の設立とともに、業務執行理事に就任し、非営利組織の組織評価・認証制度の普及にも取り組んでいる。

twitter: @canpan2009

Facebook <http://www.facebook.com/yamadamay>

note <https://note.com/yasuhisayamada>

CANPAN講座 <http://blog.canpan.info/c-koza/>

JCNE・NPOフォーラム <http://blog.canpan.info/cpforum/>

情報発信のこともやっています。

セミナーだけでは伝えきれないことを本にまとめました。

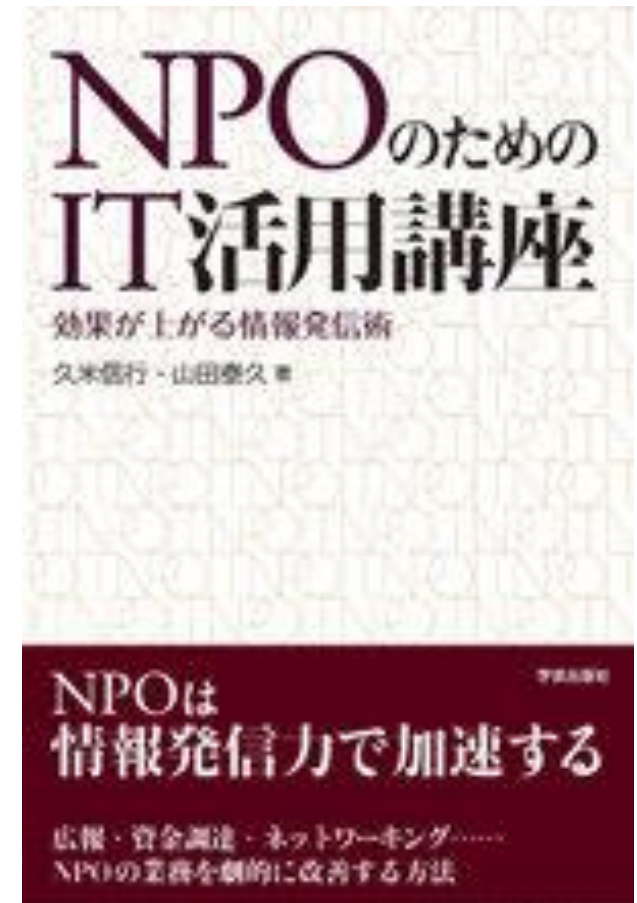
NPOのためのIT活用講座
～効果が上がる情報発信術
久米 信行 著 山田 泰久 著
学芸出版社



四六判・224頁・定価 本体1800円+税

■■ 内容紹介 ■■

「お金が足りない」「忙しい」「どんな情報を発信していいかわからない」…そんなアナタに、無駄な手間とコストをかけず、個人・団体としての活用を使い分け、広報、資金調達、マーケティング、キーパーソンとのネットワーキングなど、NPOの業務に劇的な効果をもたらす方法を、二人の達人が豊富な事例をもとにお伝えします。



非営利組織評価センター（JCNE）

2016年4月1日、全国の非営利組織の評価を行うことで信頼できる組織の情報を広く社会に発信し、支援環境の充実に寄与するために非営利組織評価センター（JCNE）を設立しました。

チャリティの歴史が長い諸外国では、第三者である評価機関が寄付等を受けて活動する団体の運営状況を評価認証し、結果を公開しています。日本でも同様の非営利組織の評価が必要な時期になりました。

この非営利組織評価センターは民間セクターの手で作りたいという願いから、多くの団体に設立のご支援をいただきました。株式会社をはじめ助成財団、NPO、一般法人といった多様な設立発起人からのご出捐。そして賛同パートナーである助成財団からの応援を得ています。さらに5年後の自立を目指し事業運営には日本財団の助成をいただいています。

組織マネジメントに関する第三者評価



グッドガバナンス認証

JCNEの独自の評価基準に基づき、専門の評価員が団体を訪問し、ヒアリングや書類確認によって組織運営の状況を評価しています。その評価結果をもとに、非営利組織の中でも組織運営やガバナンスが一定水準以上のレベルの団体を認証しています。グッドガバナンス認証団体は外からは見えにくい組織内部の状況を第三者機関に開示して、信頼性・透明性の向上に努めている団体です。また、課題がある場合も見直し、改善をしていく姿勢や意欲のある団体でもあります。寄付をしたい、ボランティアとして参加したいという市民や企業の方が、期待をかけて支援ができる団体として紹介しているのが「グッドガバナンス認証団体」です。

https://jcne.or.jp/evaluation/good_governance/



グッドガバナンス認証

ベーシックガバナンスチェック

JCNEの独自の評価基準に基づき、団体運営の基本についてセルフチェックと提出書類をもとに簡易的に評価をしています。評価結果は「ベーシックガバナンスチェックリスト」で公開され、随時更新されます。継続的に第三者評価を受け、情報開示に積極的な透明性の高い団体として、JCNEは掲載団体への支援を推奨しています。

ベーシック評価基準23項目に基づく簡易的な組織評価です。

<https://jcne.or.jp/evaluation/outline/>

寄付月間：毎年12月

欲しい未来へ、 寄付を贈ろう。

欲しい未来へ、寄付を贈ろう。



一年の終わりに、考えたいのは未来のこと。

もっと楽しい未来。もっと優しい未来。

もっと平和な未来。もっと多様性が認められる未来。

そんな未来を手にするために、あなたの気持ちを寄付にしよう。

寄付は意思、寄付は投資、寄付は応援、寄付は願い。

寄付で未来は変えられるのです。

だから、「Giving December」。

一年の終わりに、未来を考え寄付をする。

そんな習慣を、はじめたいと思います。

欲しい未来を叶えてくれるさまざまな取り組みに、

あなたの想いを託しましょう。

さあ、年の終わりに、新しい「寄付」がはじまります。

欲しい未来へ、寄付を贈ろう。



寄付月間～Giving December～について

寄付月間とは

寄付の受け手側が寄付者に感謝し、また寄付者への報告内容を改善するきっかけとなり、そして多くの人々が寄付の大切さと役割について考えることや、寄付に関心をよせ、行動をするきっかけともなる月間を制定する。

推進委員会

委員長 小宮山宏 三菱総研理事長/元東京大学総長

共同事務局長 山田泰久 一般財団法人非営利組織評価センター 業務執行理事

民間非営利組織、企業、行政、国際機関などで寄付に関連する取り組みをしている全国代表的な機関の代表者が集まり、35名の推進委員会を構成 各法人の有志による共同事務局を設置して、寄付月間の統一ロゴ作成や各方面との連携による全国的周知による啓発活動、イベント開催や賛同パートナー（無料）の拡大などを行います

その他

・社会課題の解決のための寄付の促進が本委員会の設立の背景にあるが、寄付の定義は、寄付者個人によって違いがあり、多様性を許容する観点から、寄付の定義について委員会としては明確な排他性をもたない。

・本委員会、寄付月間参加は、各主体の自発性に基づくものであり、何ら強制的な要素を含まない。また、特定団体や特定課題への寄付を要請するものではなく、委員会としての政策提言を目指すものではない。



いますぐ体験!



ネットで

編集力チェック **無料**

編集力とはどんなもの? イシス編集学校の稽古を無料で体験できます。ウェブから申し込むと「お題」がメールで送られてきて、回答を返信すると、師範代から指南コメントが届きます。

▶ <http://es.isis.ne.jp/web.html>



リアルで

ISISエディットツアー

ブックサロンスペース「本楼」ほかユニークな書棚空間を巡りながら、編集的な体験を楽しむツアーです。映像や座談、ワークショップを交え、アタマもココロもやわらかくする2時間のプログラムで、「編集」のエッセンスを体感。イシス編集学校の編集稽古も体験できます。

● 毎月開催、日程限定。 ● Ticket: 1,500円(税別)

▶ <http://es.isis.ne.jp/edittour.html>



詳しくはイシス編集学校ウェブサイトをご覧ください。 <http://es.isis.ne.jp>

資料請求・お問合せ・お申込は

イシス編集学校 学林局

front_es@eel.co.jp

よい団体とは、
よい活動とよい情報発信を
している団体である。

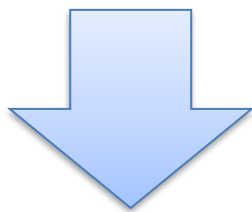
助成金も同じ

なぜ、NPOは情報発信するのか？

そもそも、NPOやその活動は外から見てわからない存在である。

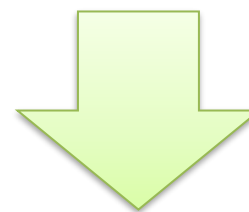
NPOの活動は、現場にいないとわからない。

活動の可視化



活動の中の感動を

活動の価値化



価値にして伝える

お話しをする前に・・・①

助成金に関する基礎知識は、以下のページの掲載資料参照

<http://blog.canpan.info/c-koza/archive/517>



【基本】初級～上級

1. 助成金の全体像を把握する

助成金の活用2014_セミナー資料_基礎編.pdf

2. 助成金というものがどういうものか、その基本を知る

助成金セミナー基礎編_日本財団荻上.pdf

3. 助成金申請から事業報告まで、助成金に関する一連の流れとやることを学ぶ

助成金活用マニュアル_日本財団荻上.pdf

【応用】中級～上級

4. 助成金を活用するという視点で、あらためて助成金の可能性について学ぶ

助成金の活用2017_セミナー資料.pdf

5. その他、申請から事業実施まで、助成金について参考なると情報を知る。

助成金の活用2014_参考資料.pdf

お話しをする前に・・・②

助成金について学ぶために参考になるサイトや資料など

1. (独法)福利医療機構 WAM助成

<https://www.wam.go.jp/hp/cat/wamjosei/>

助成金に関するノウハウ集や事業評価報告書など参考になる資料が豊富

2. あいちモリコロ基金の調査・評価(基金の運営&助成活動の成果)

https://www.morikorokikin.jp/7_chosa/chosa.html

10年間の助成プログラムの総括報告書が助成金の考え方を学ぶのに最適

3. IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所]

ソシオ・マネジメント第4号「成果を最適化するための助成プログラムのコミュニケーション調査」

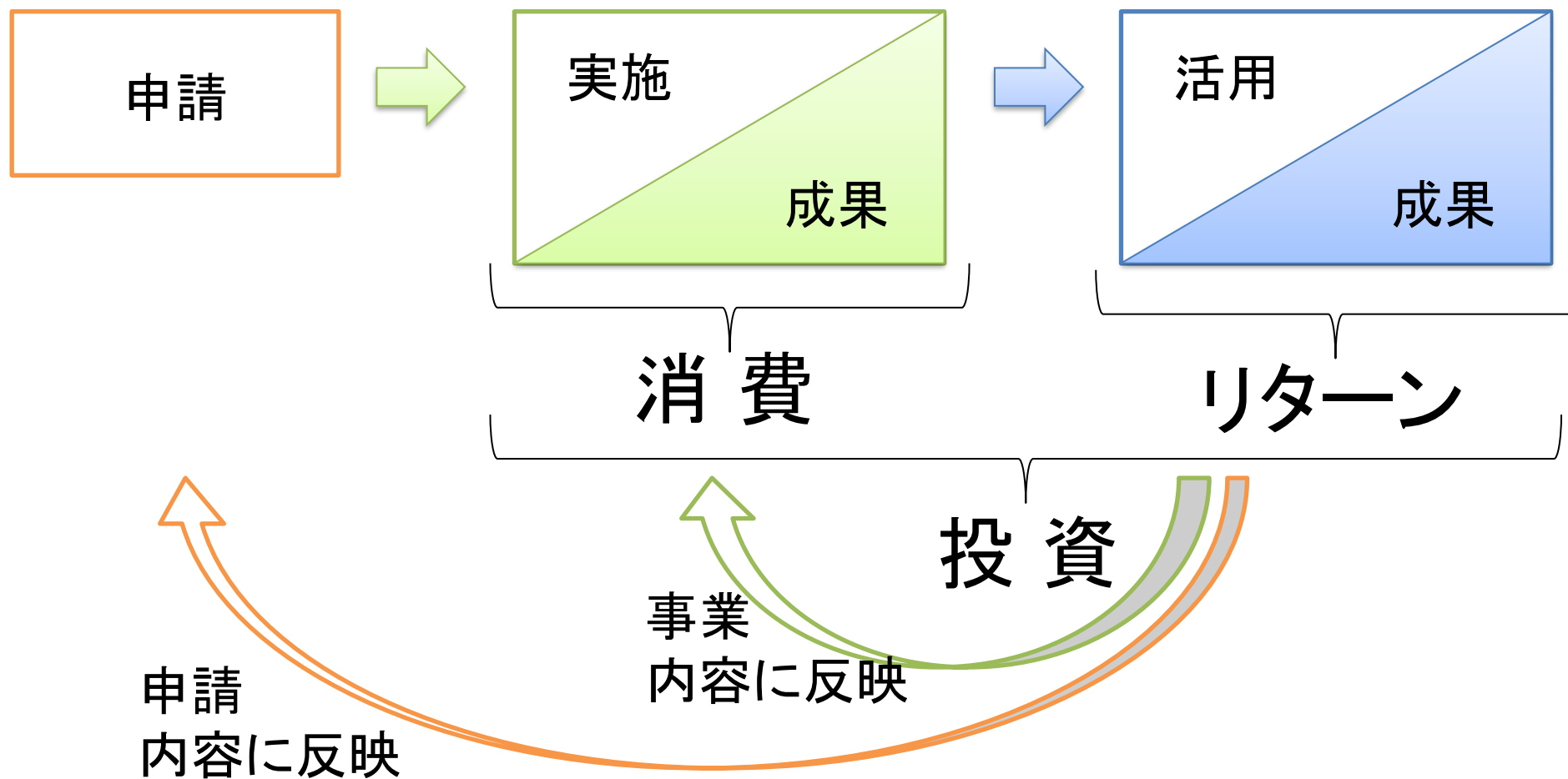
NPOマネジメント(バックナンバー)

<http://blog.canpan.info/npomanagement/>

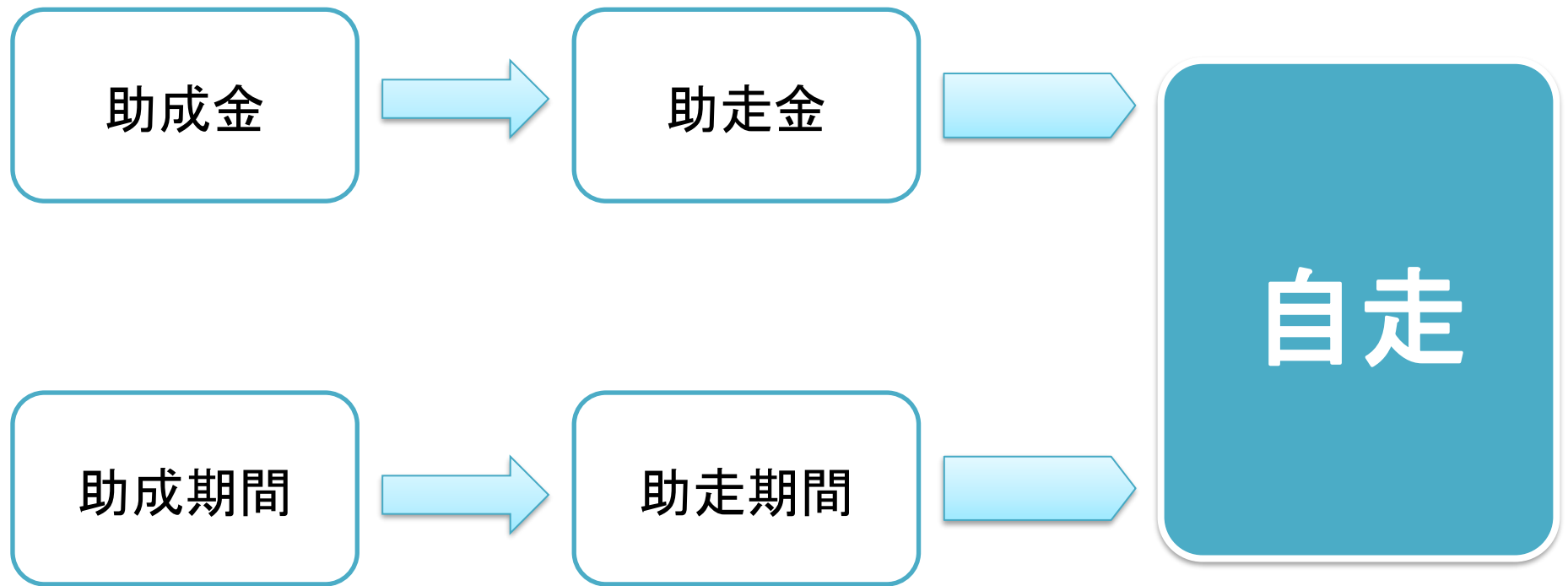
ソシオ・マネジメントは助成財団向けの内容だが、助成金をさらに詳しく学びたい方にお薦め。

助成金の活用

社会課題の解決の一助になることと、持続的に事業や組織を発展させていくことを目指して、助成金＋様々なリソースを投入すること

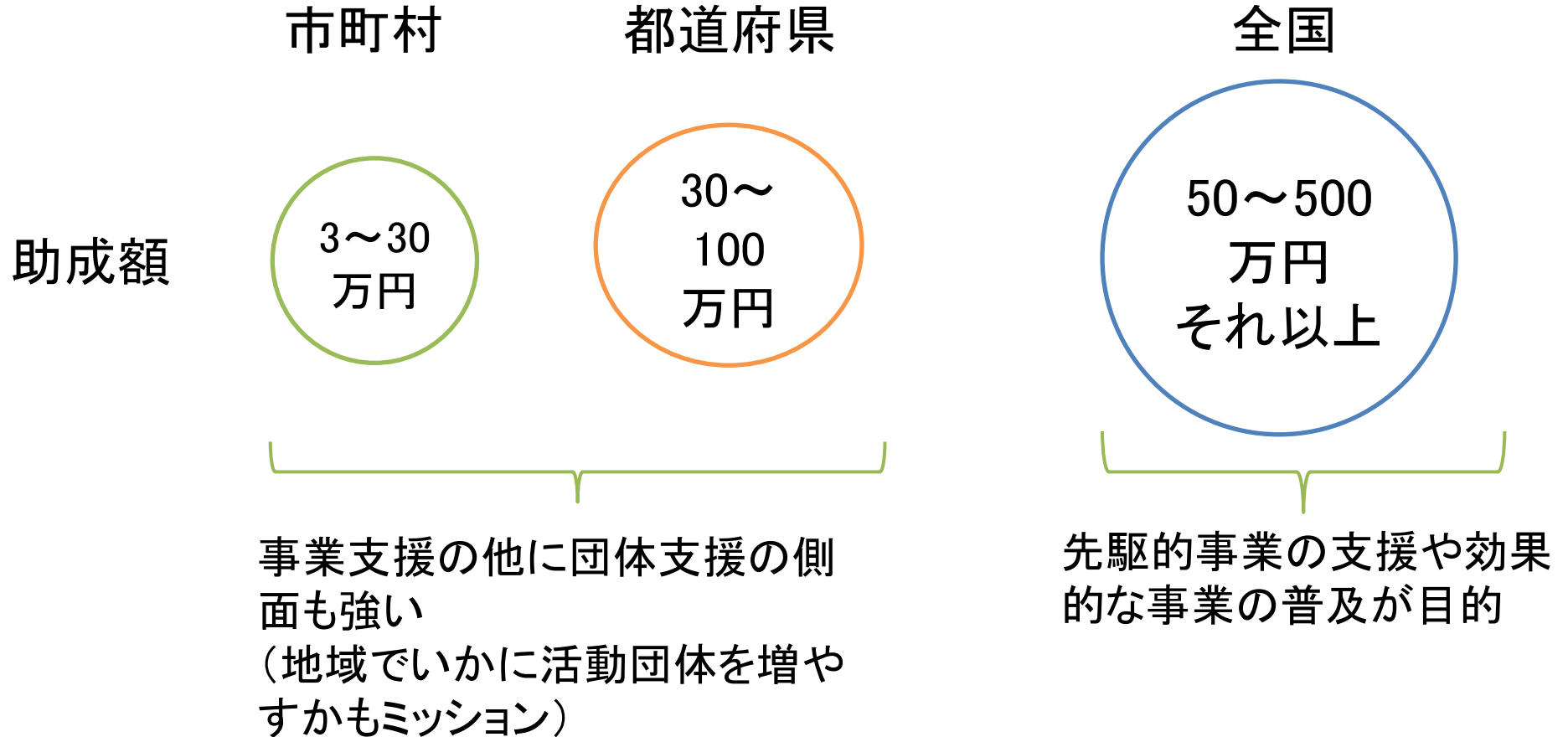


助成金のイメージ・チェンジ



助走というプロセスで「力」を蓄え、大きくジャンプ(成果)する。
その後も自走できる実力をつける。

全国募集と地域募集



★助成プログラムのほとんどがNPO法人も申請可
任意団体はざっくり8割申請可

助成金の情報収集

①データベースから使える助成プログラムを調べる

- ・助成財団センター 助成情報navi(2022年5月時点 準備中)

<https://jyosei-navi.jfc.or.jp/>

- ・東京ボランティアセンター

<https://www.tvac.or.jp/sagasu/?cat=joseikin>

【注意】データベースによっては、募集中の情報しか掲載されていないケースも

検索サイト: JIMI-Lab 市民活動助成金情報まとめ(Excelリスト)

- ・Excel形式でダウンロード
- ・すでに募集を締め切った助成プログラムの情報も掲載
- ・年間を通じてどんな助成金があるかを調べることができる。

URL : <https://www.jimi-lab.net/post/joseikin>

②お薦めのメルマガ

NPO法人セイエン(旧・シーズ・市民活動を支える制度をつくる会)

<https://www.npoweb.jp/>

<https://www.npoweb.jp/topics/malimagazine/>

助成金の情報収集

③地域のNPOセンターで情報収集

- ・地域限定の助成プログラムを調べる
- ・HPで調べる
- ・センターに行き調べる
- ・センターに相談に行く

④類似団体の事業報告書と決算からもらっている助成プログラムを調べる

⑤休眠預金を調べる（一財）日本民間公益活動連携機構（JANPIA）

<https://www.janpia.or.jp/>

⑥社員推薦の支援プログラムを調べる

- ・会員や利用者に聞いてみる

⑦賞金付きの表彰制度を調べる

⑧有料のデータベース

例：みんなの助成金（月額1,000円）

<https://www.minnano-joseikin.com>

気になる助成プログラムを見つけたら

- ①自団体で使えそうな助成プログラムを30個程度ピックアップする。
- ②助成金カレンダーを作成する。
 - ・プログラム名 ・団体名 ・募集期間 ・告知開始時期
 - ・申請上限額 ・人件費の有無 ・間接費の有無 ・支払時期
 - ・分野 ・事業形態
- ③30個ピックアップのうち、助成プログラム10個の募集要項を読む。
- ④助成プログラムの感覚をつかむ。

募集要項の2つの読み方

1. 情報収集として募集要項を読む

- ①申請できる助成金を探す
- ②事業のヒントを探す
- ③「助成」を理解する、研究する、学ぶ
- ④読んで楽しむ

2. 申請のために募集要項をしっかりと読み込む

- ①マッチングする
 - ・対象事業と申請事業
 - ・対象団体と自団体
 - ・各種条件
- ②対象事業の種類をチェックする
 - ・活動(対人サービス)
 - ・調査や実証実験
 - ・まとめ、成果、普及

★対象事業をチェックするポイント⇒活動領域と活動手法

助成プログラムの種類

助成の分類(対象事業)

①活動の実践

- ・通常の活動(対人サービス／環境活動)
- ・パイロット事業を通じての実証実験
- ・活動支援を通じた団体支援

②普及振興

調査、研究、実証実験、仮説検証、人材育成、ノウハウ化、コンテンツ化、普及啓発

③ハード／ICT

備品、機器、建物、車両、ソフト、アプリ、Webサービス

助成プログラムの目的

①受益者モデル

②活動応援モデル

③課題解決モデル

④分野振興モデル

募集要項の構成

募集要項の構成

- ・説明文
- ・対象事業
- ・審査の視点
- ・条件設定

助成財団から見た募集要項の意味

- ①情報を伝える
- ②ふるいにかける
- ③申請書の精度を上げる
- ④周知啓発をする

募集要項の説明文から読み取ること

- ①社会をどのように捉えているのか？
 - ②何を解決したいのか？
 - ③なぜ助成を行うのか？
- ⇒助成財団の世界観

非営利組織の活動のだいたいの区分け

1. 事業活動系 ⇒ 支援

受益者に、直接、サービス・機会を提供するもの。

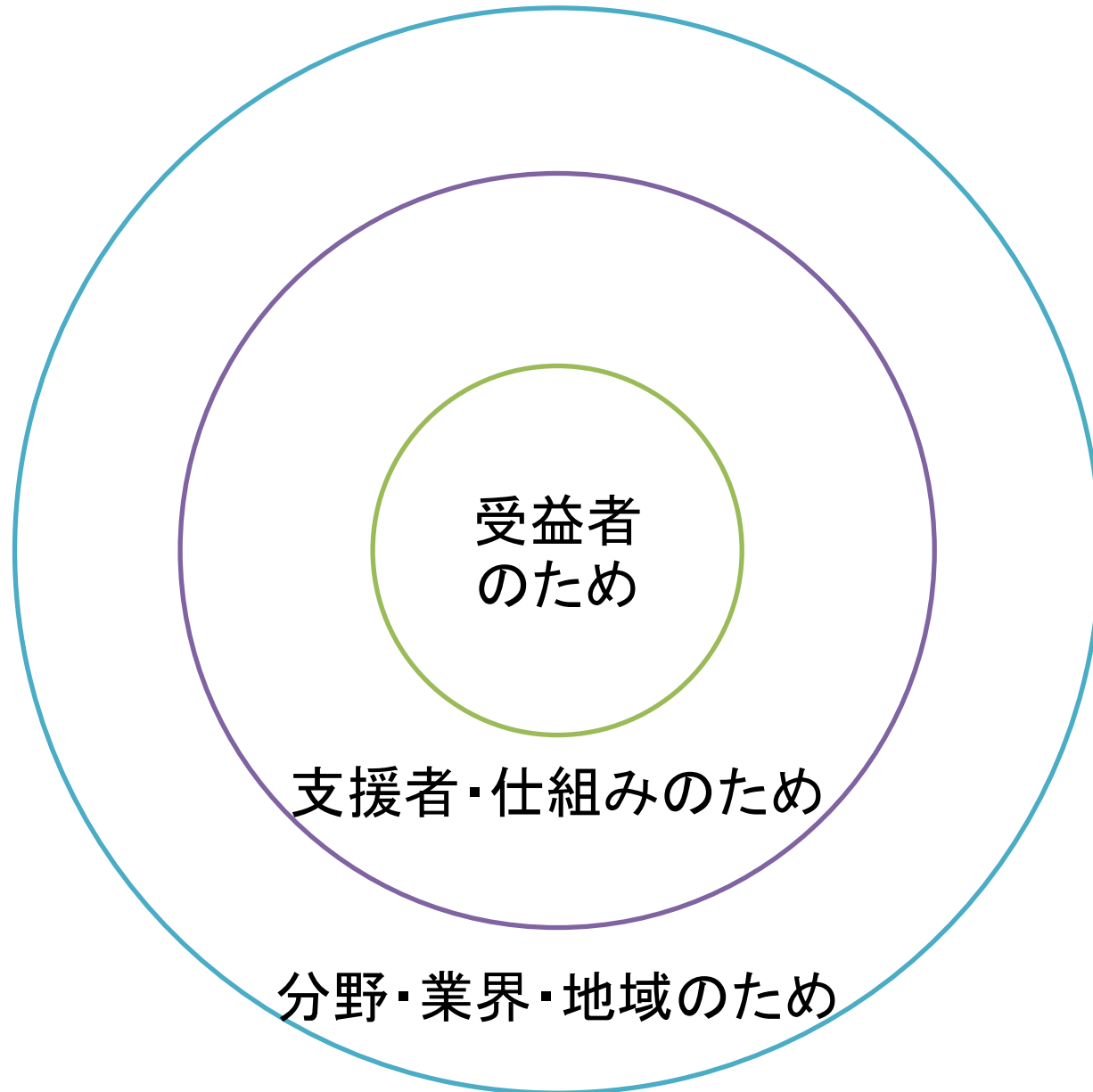
2. 調査研究系 ⇒ 振興

受益者を支える仕組みを作るためのもの。

★ 助成金には、調査研究系に強いもの、事業活動系に強いものと種類がある。

★ 一瞬、事業活動系に見えるものでも、仮説検証、社会実験、パイロットプロジェクトにすれば、調査研究になる。

公益活動の三階層



公益活動の事業の現在地

分野・地域の
ための事業

分野の
普及振興

支援活動の
基盤整備

自団体の
ための事業

支援活動

ネットワーク組織
中央団体
支援組織
研究組織

現場
がある
NPO

支援活動の事業化

調査研究

課題
発見

実態
調査

ニーズ
調査

仮説
設計

事業の
プロトタイプ

モデル
事業

事業
実装

制度化
普及啓発

ノウハウ
化

社会
実装

事業
改善

事業
運営

仮説
検証

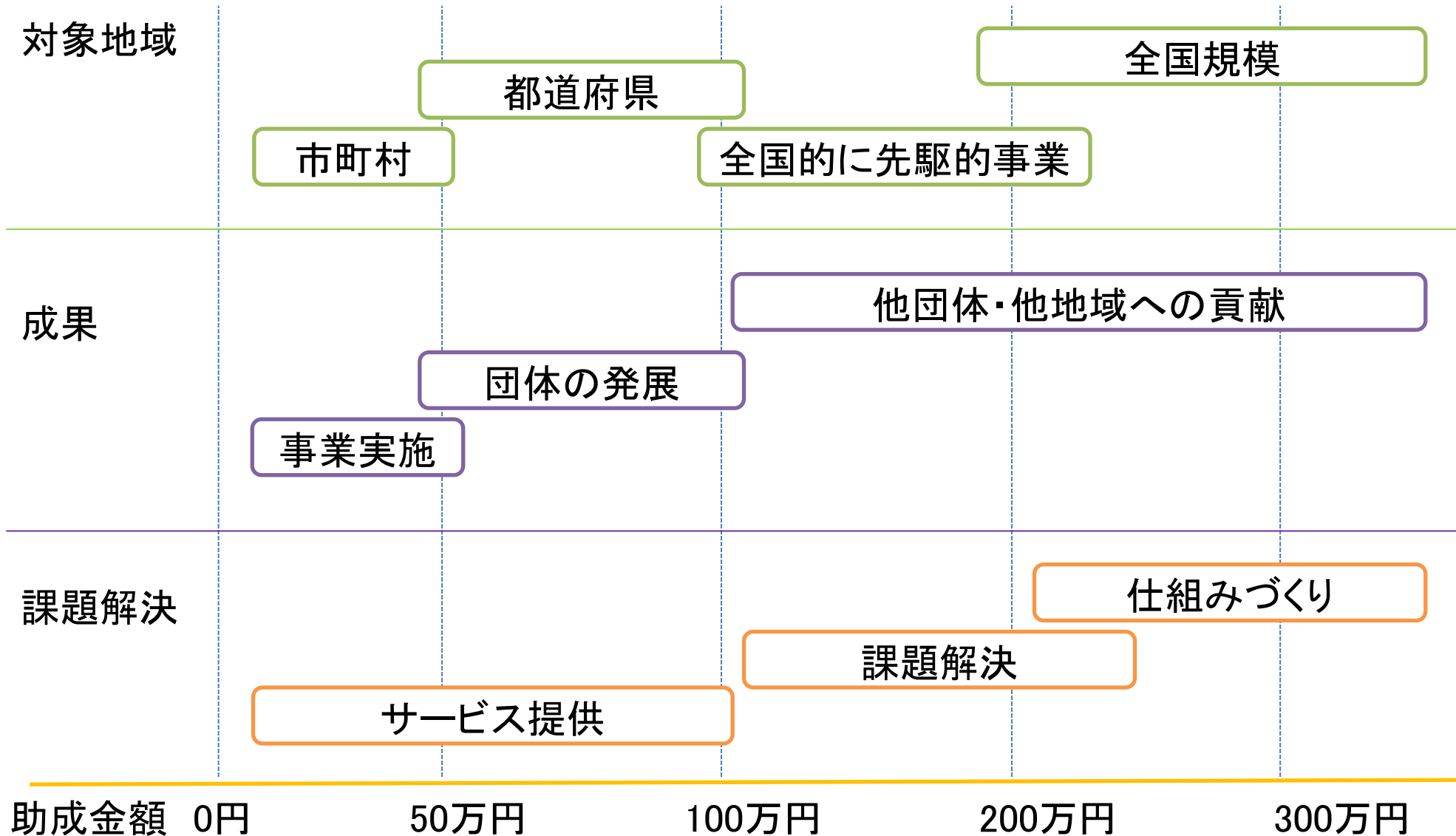
成果
まとめ

事業
収入化

規模
拡大

支援活動

助成金の金額規模から見るレベル感



助成事業の種類

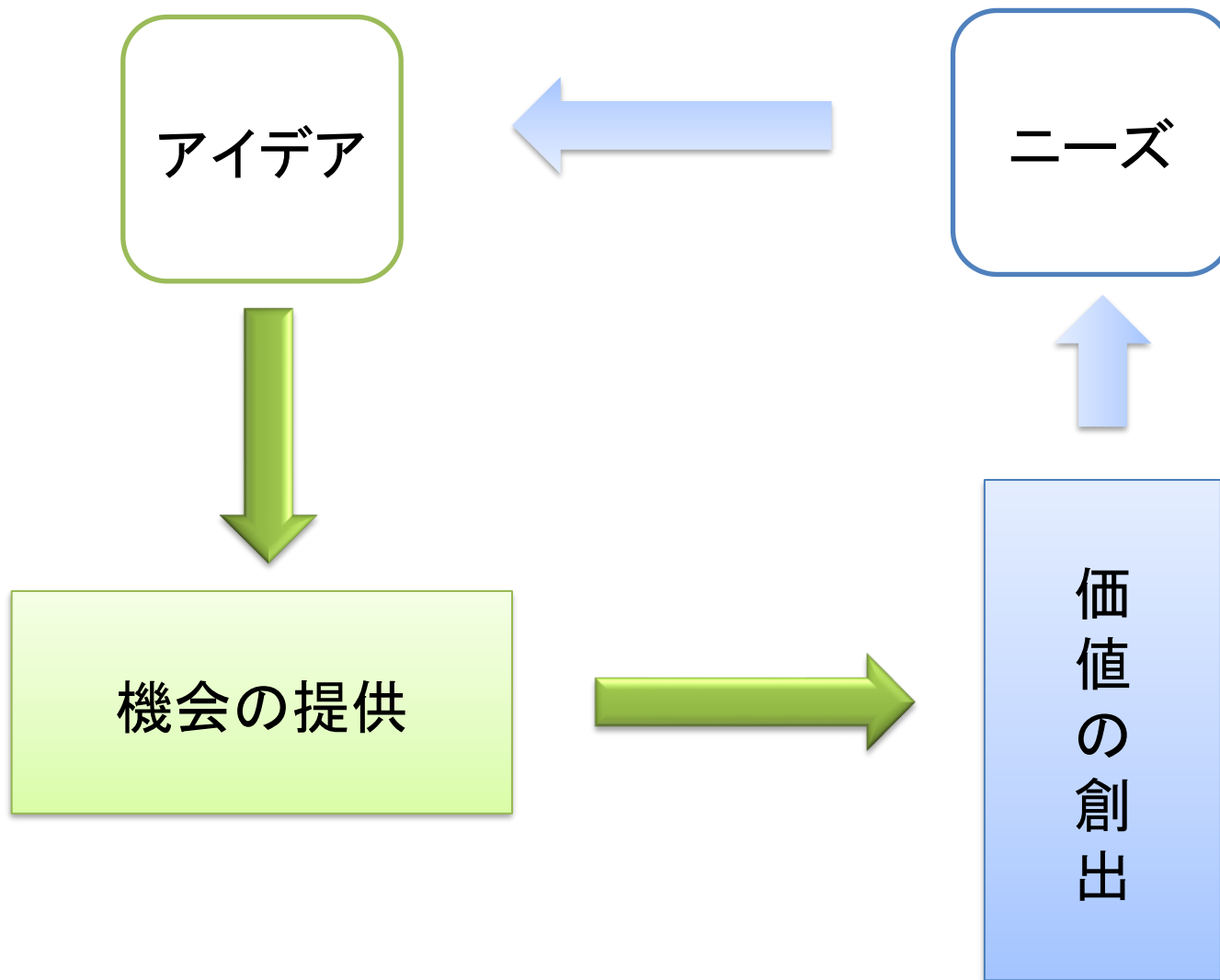
- ①間接的に受益者のためになる事業(=普及振興や調査研究)
- ②直接受益者を支援する事業(=活動支援(対人サービス))
- ③①を目的に②の事業を「モデル事業」や「パイロット事業」と称して行う事業

助成財団が目指すゴールの一つに事業の制度化がある。パイロット事業を支援して、実績が出来て、それが制度化され、民間資金から行政の資金で実施されるきっかけになること。

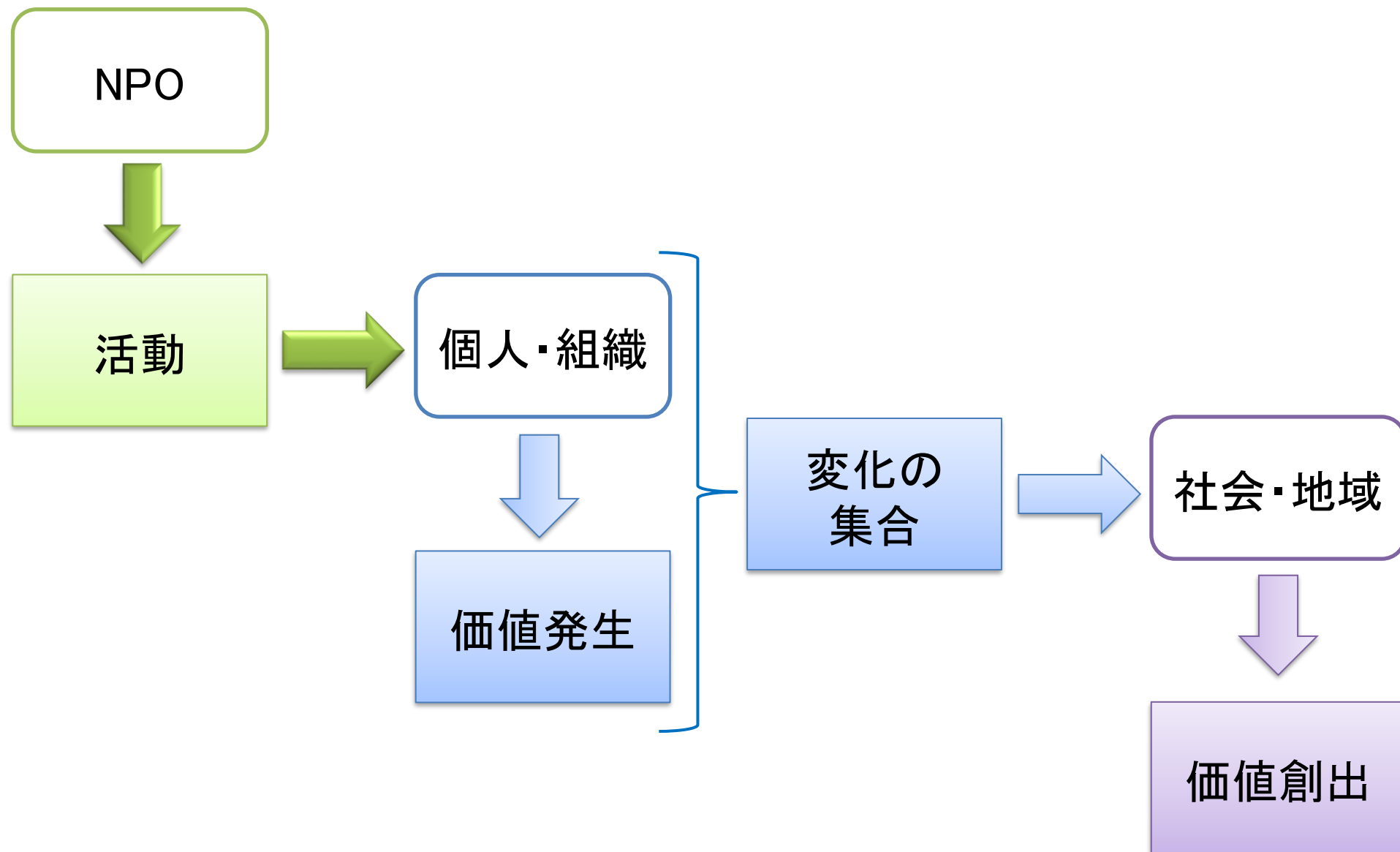
あるいは、事業の寄付モデル化、もしくは自主財源の確保がゴールとなる。

★助成金の活用が上手な団体は、③が得意！

公益活動のフレームワークその1



公益活動のフレームワークその2



助成事業による良い効果

【団体内への影響】

- ① 社会実験(仮説)の実証
- ② 事業規模・財政規模の拡大
- ③ 会費や寄付の増加
- ④ 担い手や協力者の増加
- ⑤ 担い手の力量(質)向上
- ⑥ 団体の認知度や信頼度の向上
- ⑦ 他の助成金の獲得
- ⑧ 行政との関係構築、委員、講師、協働、業務委託、指定管理等
- ⑨ 新たな支援者の獲得

【社会や地域、対象者への影響】

- ① 社会のニーズ・課題の周知啓発
- ② 事業の対象者・受益者のエンパワメントや社会参加
- ③ 市民の社会貢献の機会提供
- ④ 地域の協力体制の構築、関係作り
- ⑤ ノウハウや情報の共有・発信
- ⑥ 他地域、他団体が同事業を実施
- ⑦ 行政でモデル事業化
- ⑧ 行政で施策化、制度化

【自主財源の構築】 ★次年度以降の自主財源率向上を目指す

- ① ビジネスモデル化
- ② コンサルによる収入
- ③ 知見やノウハウの価格設定と提供
- ④ 他地域展開モデル
- ⑤ 成果物の販売
- ⑥ セミナー・研修会のパッケージ化

自主財源や事業収入化の構築

【方法】

サービス構築
ビジネスモデル構築
寄付モデル構築
協賛事業
コンサルティング
ノウハウ価格設定
他地域展開モデル
成果物の販売
研修パッケージ
講師派遣
協働
補助事業
制度事業
業務委託



【準備】

実証実験
事業の記録
ノウハウの記録
事業の発信
ノウハウ等の成果物報告会の開催
成果の共有



【対象】

参加者・受益者
一般市民(寄付者)
企業(顧客)
企業(寄付者)
行政
教育機関
NPO

申請者の視点、審査担当者の視点のギャップ



申請者

申請者は現在の状況や課題から出発して
事業を計画し、事業の実施までを
イメージする

現在の状況や課題

申請書

事業実施

その後

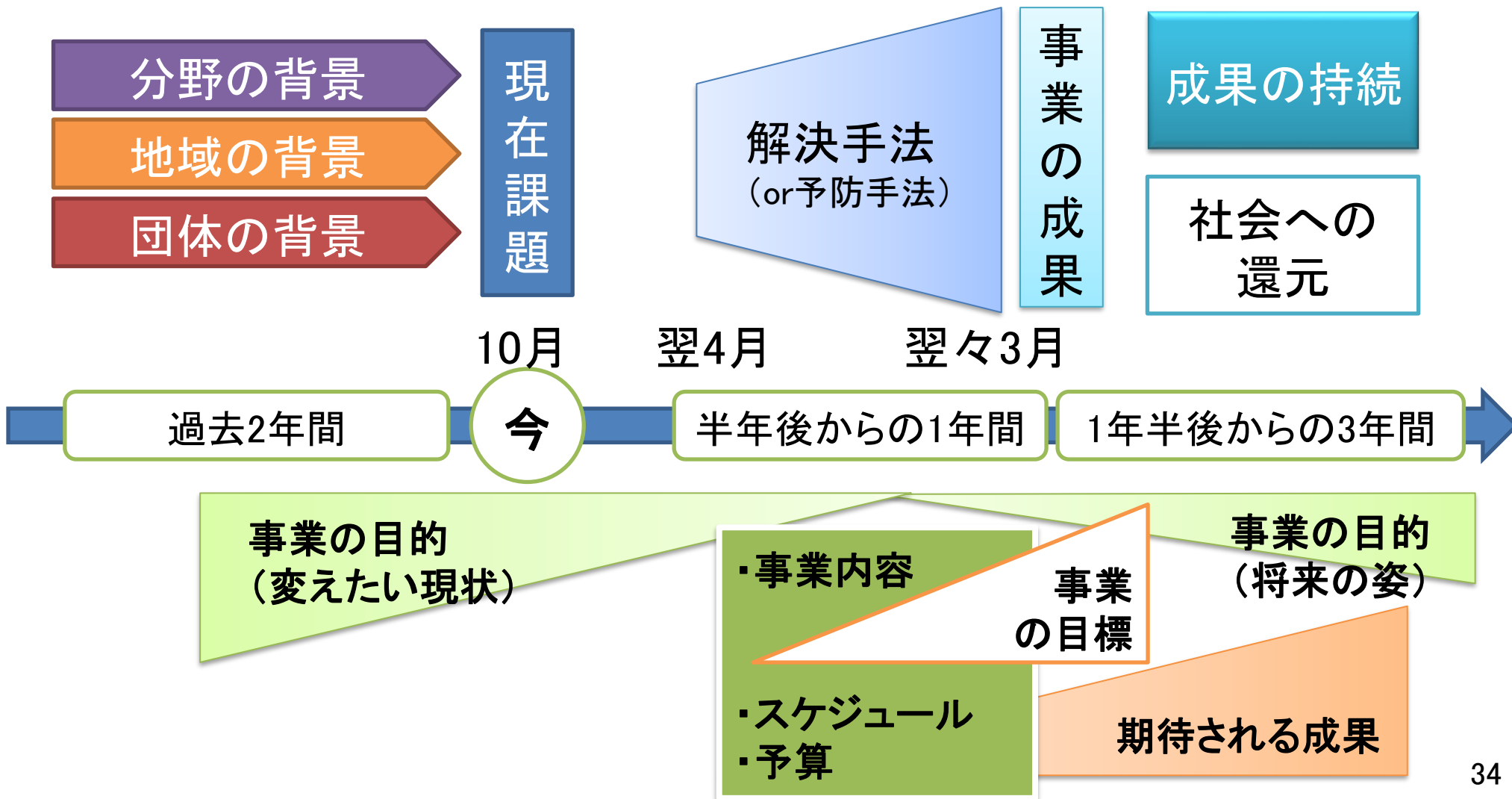
審査担当者

審査担当者は申請書から出発して計画を審査し、事業の実施
とその後までをイメージする

民明書房刊『世界公益大全一助成金よもやま話』より

助成金申請書に必要な「時間軸」

団体としての目的・目標

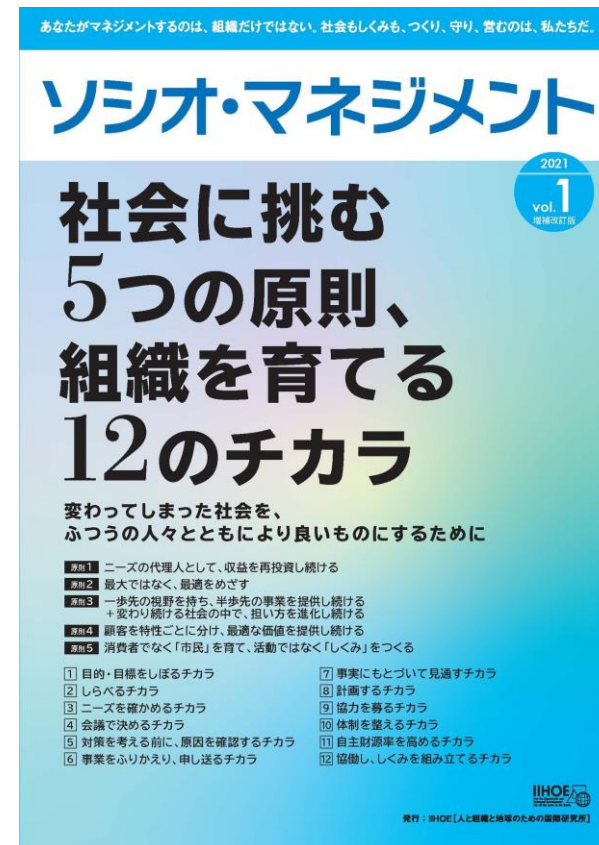


お薦めの書籍

協力のテクノロジー
関係者の相利をはかるマネジメント
松原明・大社充 著



社会に挑む5つの原則、組織を育てる
12のチカラ（「ソシオ・マネジメント」
創刊号 増補改訂版）
川北秀人 IIOE[人と組織と地球の
ための国際研究所]代表者・著



助成金とは・・・

樹木は育成することのない
無数の芽を生み、
根をはり、枝や葉を拡げて
個体と種の保存にはあまりあるほどの
養分を吸収する。

樹木は、この溢れんばかりのの過剰を
使うことも、享受することもなく自然に還すが
動物はこの溢れる養分を、自由に
嬉々としたみずからの運動に使用する。

このように自然は、その初源からの生命の
無限の展開にむけての秩序を奏でている。

物質としての束縛を少しずつ断ちきり、
やがて自らの姿を自由に変わっていくのである。

**“デンマーク王子アウグステンブルク公にあてた
美学的なことに関する書簡第27号より一部を抜粋”
フリードリヒ・フォン・シラー**



横浜／ランドマークタワー